

ハ首採用ヲ妨ナシ○第六條 徵兵令第三項合當リ輔
重難卒ヲ徵集スルハ身軀定尺ニ滿ザルモ四尺八寸以上
ノ者及ヒ缺損殘廢アリト雖馬匹ヲ使用シ荷物ヲ負擔ス
ル等凡テ職奉ノ勤務ニ支障ナキ者ハ之ヲ採用スベシ○
第七條 陸軍服役ニ採用スベカラサル一定ノ疾病ハ左之
如シ
(以下次號)

海軍一般

○海軍省丙第廿九號
報告書差出方ノ義ハ去ル十三年丙第九十五號ヲ以テ相違
置候處昨十五年第三十五號公達ノ趣モ有之ニ付本年
總テ續公達ニ基キ調整可差出此旨相違候事
但右差出期及様式等ハ退テ何分可相違候事
明治十六年三月十三日 海軍卿川村純義

○兵庫縣ヨリ陸軍省ヘ伺並ニ指令
茲ニ甲乙丙ノ三子ヲ有スル者アリ然レモ甲長男ハ脱走乙次
男ハ常備在役中父老衰ノ故ヲ以テ願濟ノ上退隱丙三男ヲ
戶主トス此戶主徵兵適齡スルハ本令第三十條第五項ニ
準シテ一年限リ徵集ヲ猶豫スルモ其後ハ本令第二十八條
第一項ニ準シ國民軍ノ外免役ニ屬シ候儀ト相心得可然哉
至急何分ノ御指揮相成度此段相伺候也
指令 伺ノ趣徵兵令第三十條第三項ニ據リ可取扱事

時事新報

文明ノ道草

抽浦外史

凡ソ人旅行チナスコ或ハ疾歩シ或ハ休息セヨリハ車
同一ノ速力ヲ以テ唯成ルベク足ヲ止メザル様ニ注意セ
却テ抄取ノヨキモノナリ常ニハ一生懸命ニ急ギナガラ或
ハ茶店ニ憩フテ數時間モ空談ヲナシ或ハ横道ニ入テ道草
ヲナスガ如キアレハ折角ノ旅程モ爲ニ大ニ抄取ラザル
アルベシ去レバ郵便飛脚ノ如キハ道ヲ歩ムニ決シテ強
ク足ヲ速メズ唯間斷ナク足ヲ運ブニ注意スト云フ航海ノ
如キモ亦同様ニシテ譬ヘハ横濱ヲ發シテ上海ニ向フコ
航海中ハ充分ノ速力ヲ以テ疾走シナガラ神戸長崎等ノ諸
港ニ碇泊シテ空ク時日ヲ經ルルハ第一經濟上ニ於テ大ニ石
炭食料等ノ損失アルノミナラズ猶航ノ全途ニ於テ大ニ到
着ノ日限リ延延セシムルアルベシ所謂航海ノ道草ナル
モノニシテ業チ水上ニ營ムモノ、注意スベキコトナリ今夫
レ一國ノ文明ニ向フハ猶ホ旅行チナシ航海チナスガ如ク
一時馴馬尙ホ及バザルノ速力ヲ以テ專ラ改題ノ風ニ向ヒ
ナガラ忽チ轉ジテ横道ニ入り道草ヲナスガ如キアレハ
縱ヒ駭ケタル文化ノ大勢ニ敵スベカラザルモ幾分カ其進
度ヲ遲延セシムルアルベシ國家ノ爲ニ不利ト云ハザル
ナ得ンヤ而シテ我輩ハ頃日我國ニ於テ大ニ此邊ニ類スル
ノ氣色アルヲ見テ甚ダ残念ニ堪ヘザルモノナリ
我國ノ外交以來今日マア成リ行キタル其道筋ヲ物語レバ
事甚ダ長シト雖ハ姑ク之ヲ他日ニ譲リ茲ニ一言セザル可
ラザルハ我國現今ノ地位是ナリ蓋今日ノ日本ハ日本國中
ノ日本ニ非ズシテ世界萬國中ノ日本ナリ對越時代擴張領
土ノ實チ行テ孤立獨歩ノ有様ヲ固守スルノ昔日ニ在テハ
我日本ハ未ダ世間ノ附合ヒモチク甚ダ氣難クシテ唯國內
チ一靜麗ナレバ天下太平ナリト唱ヘ萬民歡服シテ相祝

タルコトナレ今日ハ最早萬國互通ノ折柄世界中ノ諸國
對シテ國ノ体面ヲ維持スルノ必要ナル時ニ際シテレハ我
國モ悠々閑々執事高シテ安眠スベキニアラズ文明ノ利器
タルベキ者ハ悉皆之ヲ利用シテ我々所ナク法律モ文學モ
工業モ農商業モ漸ク西洋諸國ニ倣フテ之ヲ改良シ文明ノ範
場一步モ後レテ他國ニ取ラザランコト期セザルベカラズ
否ナ荷モ他文明國ノ文明ニ近寄ランコト勉メザルベカラ
ズ就テハ我國民一般先ヅ洋學ヲ研究スルコト最モ肝要ニシ
テ實ハ今日ヨリ分世ノ表面ニ立テ事ヲ執ルノ儀物ニシ
テ往々倒サマニ洋書ヲ繕キ其書物ヲ持テフコトサヘ知ラズ
シテ事蹟ニシテ雖レ今日一日ヨリ外交上ノ事務難駁
ヲ極メ海外ニ係ル事件ノ頻繁ナルニ及バハ實ニ洋學ヲ知
ラザレハ人ニシテ一人前ノ人ニアラズ所謂日本國內コ
ニ通用スベクシテ万國互通ノ世界ニ無用視セラル、ニ至
ルヤ必セリ何ニハ扱置キ洋學ヲ修ムルコト我國上一般ノ
急務ト云ハザルを得ザルナリ此油斷ス可ラザル時勢ニ際
シ近頃我輩ノ耳染ニ觸テ一驚ヲ喫セシメタルハ他ニアラ
ズ彼ノ一旦廢テ無用視シタル支那古學ノ道ヲ再ビ今日
ノ日本ニ挽回シテ專ラ子弟教育ノ材料ニ充テントノ一事
ニシテ或ハ某縣コトハ僅ニ僻村ニ其餘生ヲ繼ギ居タル村
夫子ヲ聘シテ更ニ學校々長トナシヨリト云ヒ或ハ某地方
コトハ老儒某ヲ敬頭ニ招テ已ニ大學中庸ノ講義ヲ始メテ
リト云フガ如キハ各地新聞紙ノ報道スル所ナリ世上ノ論
者此際ヲ聞キ殊ノ外其意ニ介シテ大ニ之ヲ論破セヨリテ
熱心スルガ如クナレバ我輩ノ考ニテハ左マダ辛苦シテ辨
論ヲ費ヤス迄ノ事ニモ非サル可シト信ス蓋今日ノ世界ニ
於テ古學ヲ挽回シテ之ヲ以テ經世ノ大本トナスガ如キハ其
愚恰カモ確執ノ戰爭ニ於テ弓矢ヲ弄セントスルニ異ナラ
ズ其時勢ニ適セザルハ實ニ申ス迄モナキコトヲ論者ノ
憤モ至極尤モナレバ我輩ハ之ヲ意ニ介スルコトヲ却テ愚
ナリト思フモノナリ何トナレバ前ニモ言フガ如ク今日ハ
是レ實ニ外交ノ世ノ中ニシテ何事モ萬國ノ交際ニ影響シ
及ボスノ折柄ナレバ縱ヒ一時偶然ノ出來心ヨリ古學ヲ挽
回スルコト今日ノ急務ニシテ世ノ障礙物ヲ除ク此道ニ如
クハナシト思ヒ試マルコトアルモ天下ノ大勢決シテ長ク此
陋見ヲ辭スベキコトアラズ偶然ニ發スルモノハ又偶然ニ消
ユルハ事物ノ定理ナレバ古學挽回ノ購モ久シカラズヤ
其跡ヲ取ルルニ至ル可キヤ又疑テ容レズ若又建テ今日古
學ノ世界ト變セシメントナレバ先ツ差當リ外國ノ交際ニ
斷リ鎖道電信モ皆之ヲ破壞シ軍艦兵備モ之ヲ擴張スルニ
及バザルベシ此等ノ諸件モ悉皆古ニ復シテ再ヒ我日本チ
嘉永以前ノ日本トナサバカカズ斯クアリテコソ支那
古學ノ挽回ニ至極相應ナレバ夫子自カテ洋服ヲ着テ洋帽
ヲ戴キ卷煙草ヲ吹キ一切万事西洋風ヲ真似ナガテ獨リ教

雜報

育ノ一點ノ古風ニ引展サシトスルハ自家道ヲ甚シキ
モノニシテ目下ノ時勢ニ不似合ナリト云ハザルを得ズ左
レハ論者敢テ故ヲ云フ之ニ向テ攻撃ヲ試ミザルモ日ナラズ
シテ自分自身ニ自滅スルコトアルベシ是我輩ガ此事ニ就テ
ハ敢テ意ニ介スルニ足ラス唯必ク憐笑ニ堪ヘズト云フ
所以ナリ然レモ茲ニ聊カ残念ナルハ之ガ爲メ文明ノ道草
チナシ幾分カ我國ノ進歩ヲ遲鈍ナラシムルノ一事ナリ蓋
外交以來我國文化ノ發達向テ所敵ナク充分ノ速力ヲ以テ
進歩シタルコトナレバ如何ニ古學ノ挽回ニ從事スルモノ
ルモ決シテ爲ニ妨害セラル、ノ恐ナシト雖レ之ガ爲メ幾
分カ世人ノ注意ヲ惹キテハ彼旅行ノ道草、航海ノ碇泊ニ
巧シク開進ノ全途ニ於テ其速力ヲ遲緩ナラシメ國家ノ不
利之ヨリ大ナルモノナケレバナリ開進ノ猛火正ニ盛ナル
ノ今日ニ於テ古學一滴ノ水ハ以テ之ヲ消滅スル能ハズト
雖レ幾分カ其火勢ヲ減殺スルノ功アリトモ我輩爲ニ大
ニ憂慮ニ堪ヘザルモノアリ嗚呼我國前途尙其マ遠シナリ
此時ニ際シテ此舉ヲ見ル悲憤ノ情、默止スルニ忍ヒザル
モノアリ依テ本論ヲ草ス世人果シテ如何ノ感想ヲ起スヤ

○皇居御遊營年限 同年限ノ義ハ已ニ本紙上ニ記載せし
まどもありしが此程より 聖上ハ履ニ條總裁を召せ給
以落成の年限を急ぐせ給ふと總裁より右御遊營の本
材取崩及び切組等より其他落成迄の順序期限等の見積書
を奉呈せられたりと尤も来る廿一年中お工事を竣らるゝ
の見込あるよし

○伊藤參議 同公ハ来る四五日頃歸朝せらるゝやの辭
あれども當時尙は日理曼ニ滯留せらるゝ由此程其筋へ通
報ありしと云ふ

○松方大藏卿 同卿ハは來月中旬より神戸長崎の阿稅關
へ廻廻の都合をせと聞く

○大山陸軍卿 同卿ハは去九日歸京せられたる由前號ハ
記載せしが右の誤附みて當時尙野州掛谷温泉に入浴中の
よし

○高嶋陸軍中將 同中將ハは昨日午後一時新橋發の電車
にて西部廻廻として出立されたり

○布哇公使の死去 近頃ノ事と米國大統領アーサー
氏ハ其官邸に於て饗宴を開き内閣諸卿夫妻ハ勿論各國公
使を招待し宴將ニ酌あらんとすると此頃詞曲も不起り
折頃珍らしき盛會ありと主客俱々入る其最中お客室お控
へ居らる布哇公使イリヤ、アレン氏は急病にて其坐お
倒れたれば藥ヲ醫者よと打腫ぎ共ニ介抱を盡しされども
氏は竟お還らぬ旅に赴きければ一團圓を失して退散せし
とぞ

○布哇行別途費 客各布哇國へ使命を奉せられたる杉公